

第71回日本臨床視覚電気生理学学会

The 71st Annual Meeting of Japanese Society for Clinical Electrophysiology of Vision

Invaluable Patients and Priceless Samples

～ 遺伝子診断への幕開け～

会長

林 孝彰

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
眼科 教授

会場

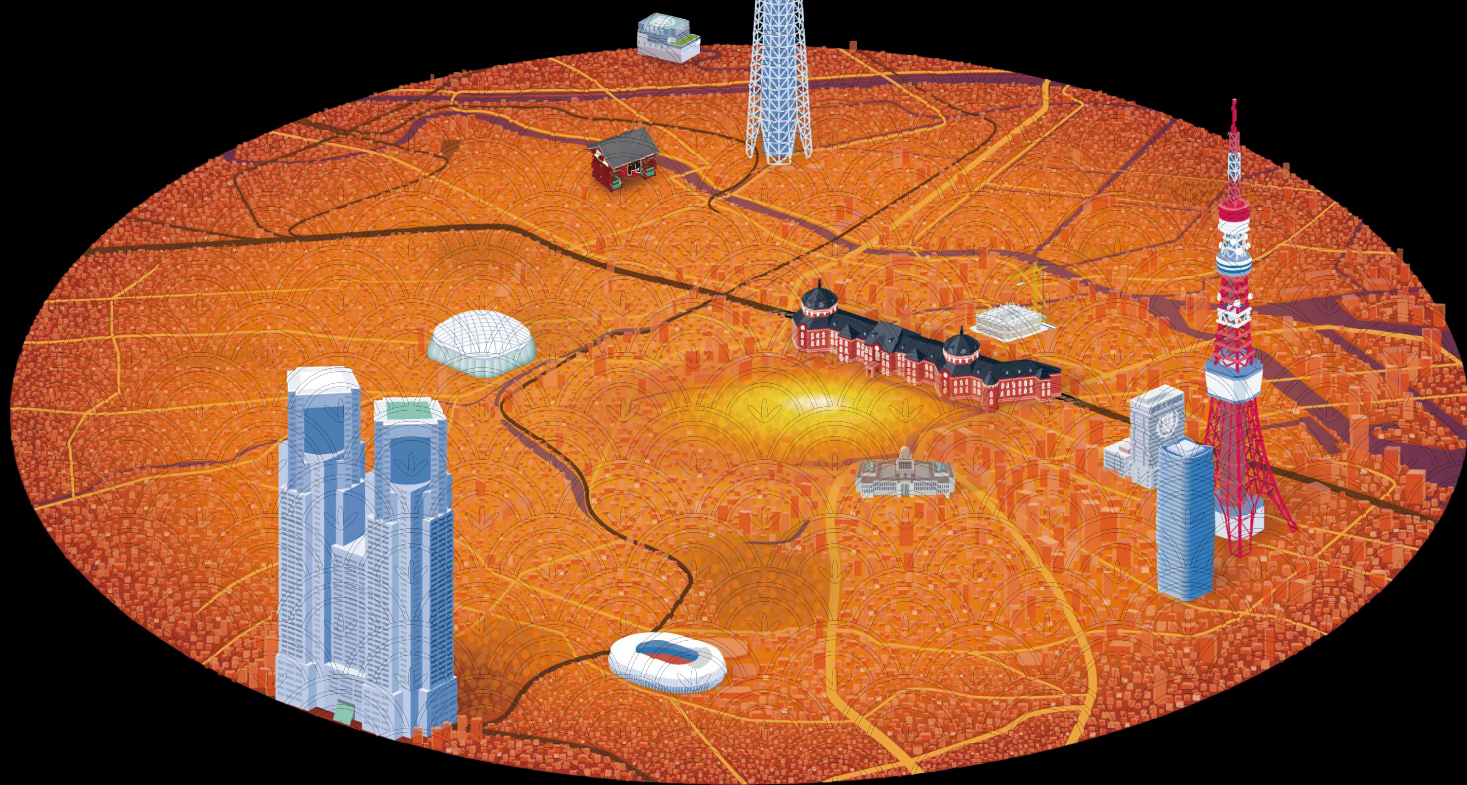
東京慈恵会医科大学
大学1号館

〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

会期

10²⁰²⁴

12・13
土 日



プログラム・講演抄録集

第71回 日本臨床視覚電気生理学学会

The 71st Annual Meeting of Japanese Society for Clinical Electrophysiology of Vision

Invaluable Patients and Priceless Samples

～ 遺伝子診断への幕開け～

プログラム・講演抄録集

- 会期 2024年10月12日^土・13日^日
- 会場 東京慈恵会医科大学 大学1号館
〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
- 会長 林 孝彰
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 眼科 教授
- HP <https://n-practice.co.jp/71jscev/>



- 主催事務局 東京慈恵会医科大学 眼科学講座
〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
事務局長 溝渕 圭
- 運営事務局 株式会社 エヌ・プラクティス
〒541-0046 大阪市中央区平野町1-8-13 平野町八千代ビル7階
TEL: 06-6210-1037 E-mail: 71jscev@n-practice.co.jp

INDEX

ご挨拶	1
会場へのアクセス	2
会場案内図	3
参加者へのご案内	4
講演についてのご案内	8
学会で発表された原著について・ 眼科臨床紀要投稿規定	10
日 程 表	12
プログラム	14
抄 録	
特別講演	25
招待講演	26
シンポジウム	27
一般口演	39
共催セミナーのご案内	71
著者索引	79
協賛団体・企業一覧	81

ご 挨拶



第71回日本臨床視覚電気生理学会

会 長 林 孝彰

東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター 眼科 教授

この度、2024年10月12日(土曜日)と13日(日曜日)に第71回日本臨床視覚電気生理学会を東京慈恵会医科大学で開催させていただきます。慈恵医大附属病院、葛飾医療センターを含む附属病院では、土曜は診療日となっておりますが、10月12日は、本学創設者である高木兼寛先生の記念日につき休診日となっております。本学会では、電気生理学的手法を用いて、主に網膜・視神経疾患の診断や治療、その病態評価、モデル動物を用いた研究などの発表が多いことが特徴でした。近年の次世代シーケンサーを用いた遺伝子解研の進歩に伴い、分子レベルでの網膜・視神経疾患の病態解明に向けた研究も増えてきました。欧米に続き本邦においても RPE65 関連網膜ジストロフィの遺伝子治療が始まり、遺伝学的検査の重要性が再認識されるようになりました。2023年8月、網膜ジストロフィに対する遺伝学的検査も保険収載された影響もあり、昨今、遺伝性網脈絡膜疾患・網膜ジストロフィを網膜画像や網膜機能だけで診断する時代ではなくなっているように感じています。また、遺伝性網膜ジストロフィ (Inherited Retinal Dystrophy) の略号である IRD という言葉が、眼科医以外の病院スタッフにも通じるようになりました。一方、遺伝性網膜ジストロフィと鑑別を要する重要疾患の1つとして、後天的に網膜機能障害を引き起こす自己免疫網膜症の病態も掘り下げたいと考えています。網脈絡膜硝子体疾患だけでなく、眼炎症・免疫疾患に興味をもつ多くの方の参加をお待ちしております。

特別講演は、岩田岳先生(東京医療センター)にお願いし、眼疾患に対する遺伝子解析研究の変遷についてご講演いただきます。招待講演は、浅沼一成先生(国立保健医療科学院)に、医療を取り巻く状況と今後の方向性についてご講演いただきます。

本学会では、「Invaluable Patients and Priceless Samples (～遺伝子診断への幕開け～)」を主要テーマとして、3つのシンポジウムを企画しました。

1. 小児期に発症する網膜硝子体ジストロフィ
2. 遺伝性網脈絡膜疾患に対する遺伝学的検査の最前線
3. 自己免疫網膜症診断への道のり

眼科のなかでニッチな領域ではありますが、極めて重要な学問分野で、眼科医としての視野を広げるよい機会になると確信いたします。学会に参加し、一緒に勉強していきましょう。

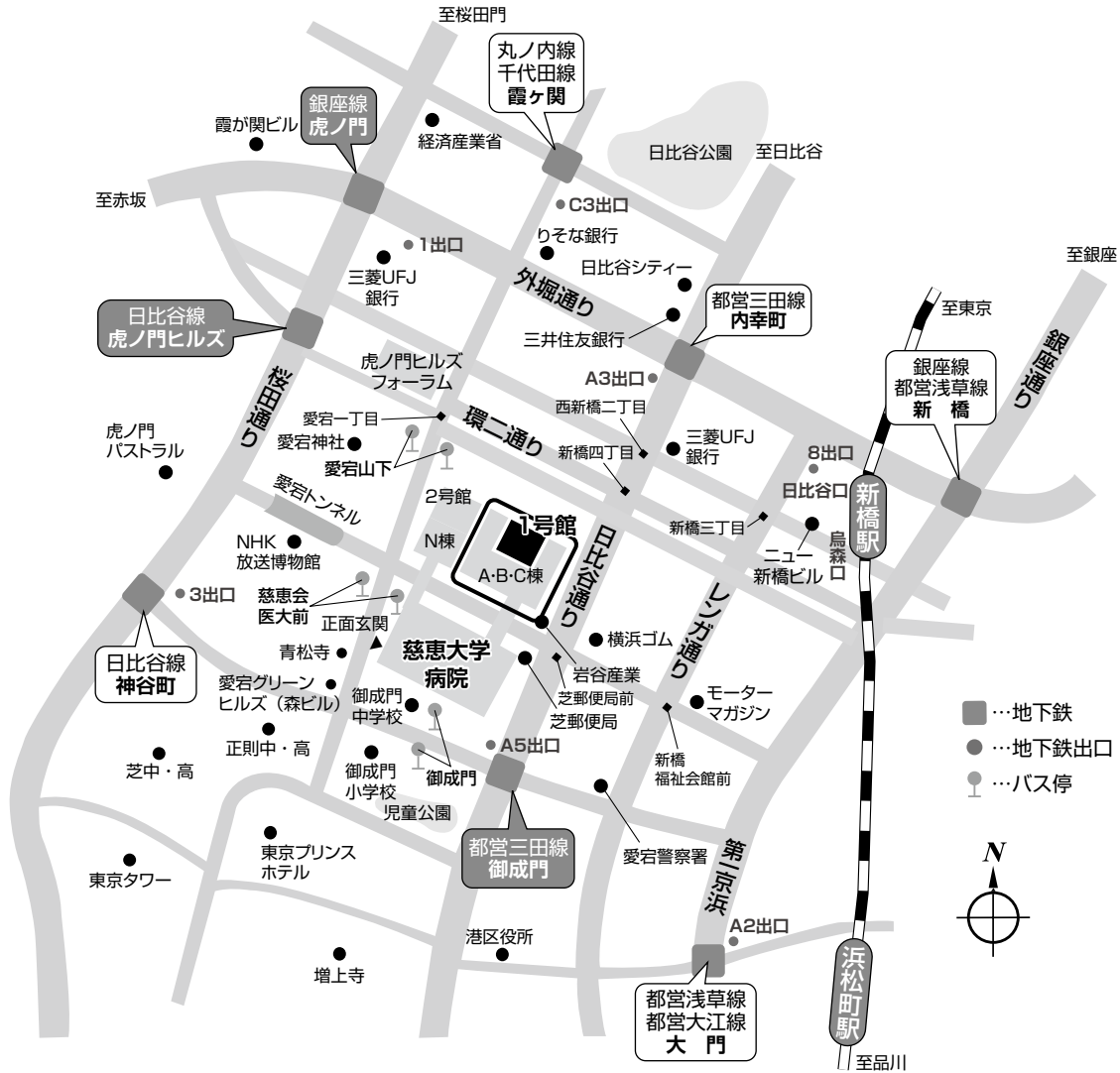
学会のホームページは、東京のランドマーク(東京タワー、東京駅駅舎、浅草寺、東京スカイツリー、東京都庁舎、国立競技場など)を眼底写真に組み込んでイメージしたものとなっております。学会最終日の翌日は祝日(スポーツの日)です。ランドマークツアー、グルメにショッピングなど、東京を思う存分満喫してください!

学会開催にあたり、学会の理事をはじめ会員のみならず、学会事務局のみならず、共催セミナーや展示、学会プログラムへの広告掲載などにご協力いただく企業の方々、東京都眼科医会ならびに東京慈恵会医科大学眼科同門(慈眼会)の先生方のご支援に心より感謝申し上げます。

会場へのアクセス

東京慈恵会医科大学 大学1号館

〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8



■ 地下鉄

- 都営三田線
 - 「御成門」下車(A5出口) 徒歩約3分
 - 「内幸町」下車(A3出口) 徒歩約10分
- 日比谷線
 - 「神谷町」下車(3出口) 徒歩約7分
 - 「虎ノ門ヒルズ」下車(A1出口) 徒歩約9分
- 銀座線
 - 「虎ノ門」下車(1出口) 徒歩約10分
- 銀座線・都営浅草線
 - 「新橋」下車(8出口) 徒歩約12分
- 丸の内線・千代田線
 - 「霞ヶ関」下車(C3出口) 徒歩約13分

- JR 新橋駅下車 徒歩12分
- JR 浜松町駅下車 徒歩15分

■ バス(交通事情により所要時間が異なることがあります)

- 都営バス/東98系統(東急バスと共同運行)
- 東京駅丸の内南口 → (目黒駅経由) → 等々力操車所前 → 「慈恵会医大前」または「愛宕山下」下車
- ※東京駅丸の内南口バス乗り場(1番)より約20分

会場案内図

東京慈恵会医科大学 大学1号館 3F



参加者へのご案内

1. 参加登録

- 1) 事前に、学会ホームページでオンライン登録をお済ませください。
登録後の取消・返金はいたしかねます。二重登録等に充分ご注意ください。
- 2) 発表者は必ず参加登録が必要となりますのでご注意ください。
- 3) 領収書、参加証明書は、参加者専用ページよりご自身で出力お願いいたします。

〈参加登録費〉

	早期参加登録	後期参加登録
	4月8日(月)～9月16日(月)	9月17日(火)～10月13日(日)
会 員	12,000円	15,000円
非会員	15,000円	18,000円
企業職員	15,000円	18,000円
メディカルスタッフ・大学院生 研修医・留学生*	4,000円	5,000円

※メディカルスタッフ、大学院生、研修医、留学生の参加区分の方は、所属長の証明が必要です。
参加登録時に、登録区分証明書をHPよりダウンロードして、記入のうえ、提出してください。
なお、「研修医」区分は、4年目(後期研修2年目)までです。

2. 抄 録 集

PDF データを、参加者専用ページに掲載いたします。
冊子は、早期参加登録期間に参加登録された方に、学会当日、会場でおわたしいたします。

3. 受 付

学会当日は、受付で参加登録完了メールを提示してください(出力またはスマートフォン等画面での提示いずれでも可)。確認後、ネームカードをおわたしいたします。

時 間：10月12日(土) 8:00～16:45
10月13日(日) 7:30～16:00

場 所：3F ホワイエ

4. 日本眼科学会 専門医制度単位取得について(認定番号：59048)

本会では、c)眼科領域講習単位、d)学術業績・診療以外の活動実績(学会出席単位)が取得できます。新専門医制度についての詳細は下記からご確認ください。

https://www.nichigan.or.jp/senmon/renewal/koshin_new.html

日 程	c) 眼科領域講習単位	d) 学会出席単位
	最大取得単位	
10月12日(土)	最大 1.0単位	0.5単位
10月13日(日)	最大 1.0単位	

c) 眼科領域講習単位

眼科領域講習の対象プログラムを聴講した場合のみ、単位が取得できます。単位の対象プログラムと単位数は下記のとおりです。

日 程	対象プログラム	単 位
10月12日(土)	シンポジウム1	0.5
	特別講演	0.5
10月13日(日)	シンポジウム2	0.5
	シンポジウム3	0.5

※注意事項

- 単位対象プログラム毎に単位受付が必要です。単位の対象となるプログラムは、部屋の入口に単位受付デスクを設置し、入場時に単位受付を行います。セッション開始10分を過ぎると受付は終了しますので、ご注意ください。
- 単位を取得するプログラムは、開始から終了まで参加してください。

d) 学会出席単位

以下の場合に、学会出席単位 0.5単位 が取得できます。

1) 学会出席単位受付デスクで単位受付をした場合

受付時間：10月12日(土) 8:00～16:45

10月13日(日) 7:30～16:30

受付場所：3F ホワイエ

2) 眼科領域講習単位を取得した場合

※注意事項

- 眼科領域講習単位の取得手続きを行うと、「d) 学会出席単位」は自動で加算されるため、1)の手続きは不要です。
- 「d) 学会出席単位」は、1日ごとの単位付与ではなく、出席日数にかかわらず本会に出席されることにより0.5単位が付与されます。なお、「d) 学会出席単位」の上限は5年間で6単位です。

単位受付について

必ず専門医更新登録証(青・白色のカード)をお持ちください。以前の専門医更新登録証(金色のカード)は使用できません。

5. クローク

受付時間：10月12日（土）8:00～18:10

10月13日（日）7:30～17:10

場 所：3F 通路

6. 食 事

ランチョンセミナーではお弁当、モーニングセミナーでは軽食、ティータイムセミナーではお菓子を配布いたします。

ただし、数に限りがございますので、ご了承ください。

整理券の配布はございません。

7. 機器展示

日 時：10月12日（土）9:00～17:00

10月13日（日）9:00～15:00

場 所：3F ホワイエ

8. 日本臨床視覚電気生理学会新入会申込み・年会費受付

★筆頭演者は、日本臨床視覚電気生理学会の会員に限ります。

★入会の申込みについては、下記にお問い合わせください。また、学会当日も、新入会・年会費・受付デスクを設けております。

日本臨床視覚電気生理学会 事務局

〒514-8507 三重県津市江戸橋2丁目174 三重大学医学部 眼科学教室内

TEL：059-231-5027 FAX：059-231-3036 URL：<https://www.medic.mie-u.ac.jp/jscev/>

9. 会場内でのご注意

会場内での録音、写真およびビデオ撮影はご遠慮ください。また、携帯電話はマナーモードに切り替えるか、もしくは電源をお切りください。

10. 関連会議

1) 日本臨床視覚電気生理学会 理事会

日 時：10月12日(土) 17:30～18:00

場 所：3F 大講堂

2) 日本臨床視覚電気生理学会 総会

日 時：10月13日(日) 14:25～14:55

場 所：3F 大講堂

11. 一般口演の皆様へ

第71回日本臨床視覚電気生理学会では、「優秀発表賞」を設けております。

一般口演の中から主催校にて優秀演題を選出し、総会(10月13日(日) 14:25～)において表彰式を行います。

12. インターネットサービス

会場に Wi-Fi 設備はございません。

講演についてのご案内

1. 利益相反 (conflict of interest) について

共催セミナーを除く全ての発表に関し、公表の対象に該当する場合は、発表時の2枚目のスライドに、利益相反の категория および企業名を記載してください。「利益相反に関する基準」および「公表の基準細則」は、日本眼科学会に準じます。日本眼科学会ホームページ内にある倫理委員会のページ (<https://www.nichigan.or.jp/Portals/0/resources/about/conflict.pdf>) を参照してください。

2. 発表時間

時間厳守をお願いいたします。

特別講演、招待講演、シンポジウム：運営事務局からご案内している時間をご確認ください。

- 一般口演：一般口演1「研究報告1」8分(発表5分 討論3分)
一般口演2「症例報告1」7分(発表4分 討論3分)
一般口演3「症例報告2」7分(発表4分 討論3分)
一般口演4「研究報告2」8分(発表5分 討論3分)
一般口演5「研究報告3」8分(発表5分 討論3分)

3. 発表形式

PowerPoint のみでの講演となります。

演台上には、モニター、キーボード、マウスを用意しております。各自で操作し、発表を行ってください。

4. 進 行

- 1) セッション開始20分前までに、会場内前方の次座長席または次演者席にお着きください。
- 2) 座長は、開始の合図が入り次第、セッションを開始してください。
- 3) 講演者は、座長の指示のもと、講演を行ってください。
- 4) 時間厳守にご協力ください。

5. PC 受付

講演者は、セッション開始45分前までに PC 受付にて動作確認を行ってください。

受付時間：10月12日(土) 8:00～16:20

10月13日(日) 7:30～15:45

受付場所：3F 会場横

6. 発表機材・データについて

1) USB お持ち込みの場合

USB でお持ち込みいただくことを推奨します (Windows、Mac とともに)。

発表データのファイル名は「演題番号 氏名(漢字)」としてください。

例) O1-1 眼科花子

- アプリケーションは以下のものをご用意します。
Windows 版 PowerPoint2019
動画アプリケーション Windows Media Player (MP4を推奨いたします。)
- 持ち込まれるメディアに、発表データ(完成版)以外のデータを入れないようにしてください。
- 必ずバックアップデータもご用意ください。バックアップデータを持参されなかったために発表が不可となった場合も、責任を負いかねますのでご了承ください。
- メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルス駆除ソフトでチェックしてください。

2) PC 本体をお持ち込みの場合

- スクリーンセーバーならびに省電力設定は、事前に解除しておいてください。
- 持込 PC は HDMI 出力できるものに限り、変換コネクタが必要な場合は、必ずご自身でご用意ください。
- AC アダプタを必ずお持ちください。
- PC に保存されたデータの紛失を避ける為、ご発表データは必ずバックアップをお取りください。
- ファイルに動画、音声が含まれる場合は、PC 受付にて再生チェックを必ず行ってください。
- 動画(音声)をご使用になる場合は、試写の際に必ずオペレーターにお申し出ください。
- 受付終了後、ご自身で会場のオペレーター席まで PC をお持ちください。
- 発表終了後、ご自身の PC は会場のオペレーター席にて回収ください。

3) 発表データ作成について

- 16:9で作成ください。
- フォントは文字化けを防ぐため下記フォントに限定して使用してください。
MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝、Arial、Arial Black、Arial Narrow、Century、Century Gothic、Times New Roman
- 動画データは、Windows10の初期状態に含まれるコーデックで再生可能のものに限定させていただきます。
- 事前に、発表データを作成された PC 以外の機体で動作確認を行ってください。

7. 討 論

- 1) 討論は、個別に行われます。
- 2) 討論者は、予め会場内の質問用マイクの近くでお待ちください。
- 3) 討論者は、氏名・所属を明瞭に述べた後、簡潔にご発言ください。

学会で発表された原著について

「眼科臨床紀要」に投稿される場合は、下記の眼科臨床紀要稿規定を参考にしてお書きになり、眼科臨床紀要会宛にお送りください。

眼科臨床紀要会

〒112-0004 東京都文京区後楽2-18-8 公和図書株式会社内

Tel : 03-3813-6337 Fax : 03-3813-6399

E-mail : info@ganrinki.net

眼科臨床紀要投稿規定

「原著」投稿規定

1. 他誌に既に発表されていないか、投稿中でない原著論文の投稿を受け付けます。
2. 論文を掲載するか否かは、査読者の意見を参考にし、編集委員会が決定します。
編集方針に従って、原稿の修正、加筆、削除などを求める場合があります。
編集上の事項を除いて、掲載論文の内容に関する責任は著者にあります。
3. ヘルシンキ宣言(世界医師会)の理念を踏まえ、本人の自由意志による同意(informed consent)を得てください。実験対象が動物の場合にも、愛護精神の観点から十分な配慮をしてください。
4. 原稿は、ワードプロセッサを用い、A4判で作成してください。
ページ番号：タイトルページを第1ページとして、順次ページ番号を付けてください。
原稿の長さ：原則として、本文と文献とをあわせて8,000字以内、図表は6点以内とします。
5. 原本1部およびコピー1部の合計2部に加え、CD-R等に保存したものを提出してください。
6. 原稿は、以下の区分ごとに、新しいページで書き始めてください。英文要約の添付は自由です。
 - 1) タイトルページ
 - 2) 要約、キーワード
 - 3) 本文
 - 4) 文献
 - 5) 図(写真)
 - 6) 図の説明文
 - 7) 表
7. 原稿の各部分は、以下の諸点に留意して作成してください。
 - 1) タイトルページ
本誌綴じ込みの用紙に所定の事項を記載し、原稿の第1ページとしてください。なお、本用紙はウェブサイト <http://www.ganrinki.net/> からダウンロード可能です。
 - 2) 和文要約、キーワード
400字以内で、論文の概要が具体的にわかるように目的、対象、結果、結論に分けて書いてください。臨床報告では、背景、症例報告、結論としてください。要約の下に、キーワード(5個以内)を重要な順に列記してください。
 - 3) 英文要約、キーワード
英文要約の添付は必須ではありません。添付される場合は1,000字以内で、Purpose, Methods, Results, Conclusionsに分けてください。臨床報告では、Background, Case report, Conclusionsとしてください。キーワードは和文に合わせた英文を列記してください。
 - 4) 本文
原則として、以下の項目順に記述してください。
 - 実験研究、臨床研究の場合：緒言、対象および方法、結果、考按
 - 症例報告の場合：緒言、症例、考按各項目内での細区分には、1. (1)を用いてください。略語は初出時にフルスペルを付けてください。文献の引用は、該当箇所の右肩に、番号を片括弧でくくって示してください。
[例：……の報告¹⁾がある。]

5) 文献

本文中に引用した文献のみを、引用順に、番号とともに記載してください。番号は片括弧でくってください。未発表の成績は印刷中の論文のみを(印刷中)として引用することができます。掲載予定証明書のコピーを添付してください。学会発表(抄録集)は引用できませんので、本文中に()書きで記入してください。著者が3名以上の場合には、筆頭から2名を列記し、それ以後は「,他」,「,et al」としてください。文献の書誌事項は以下に準じて記載してください。

(1) 雑誌の場合

著者名: 論文標題. 雑誌名 巻数: 初頁-終頁, 発行年.

著者名と論文標題は、原文のとおり記載してください。雑誌名は、日本語雑誌の場合には各雑誌で決められた略称を、外国語雑誌の場合には Index Medicus に示された略称をそれぞれ用いてください。

(2) 単行本の場合

著者名: 書名. 出版社名, 発行地名, 初頁-終頁, 発行年.

著者名: 論文標題. 編者名: 書名. 出版社名, 発行地名, 初頁-終頁, 発行年.

日本語の単行本で、編者のある場合には編者名の後に(編):を書いてください。外国語の単行本で、編者のある場合には編者名の前に in:を、編者名の後に(ed または eds):を書いてください。

外国語書名の単語の頭文字(冠詞、前置詞を除く)は大文字で書いてください。

単行本中の一部を引用した場合は、初頁-終頁を記載してください。

6) 図(グラフ、写真を含む)

データが無い図(写真)は、裏面に筆頭著者名、図番号、天地を示す矢印を記載し、カラー印刷を希望する場合その旨も付記してください。

データがある図(写真)は原稿にデータを挿入のうえ、図番号を入力してください。

患者の写真を用いる場合は、個人が特定できないようにトリミングまたはマスキングを工夫してください。患者を特定できるような写真が必須の場合は、原則として承諾書のコピーを添付してください。

カラー印刷を希望する場合、プリントした原稿の図の横にその旨を手書きしてください。

いずれの場合もカラー印刷は実費を頂きます。

7) 図の説明文

図の内容が容易に理解できるように、日本語で簡潔明確に書いてください。

図の中のシンボル、矢印、略語などについて説明してください。

8) 表

原則として、A4判サイズ of 用紙に、ワードプロセッサなどで作成してください。

表の表題(タイトル)を表の上部に書いてください。記号や略語、統計分析結果などの説明は、表の下部に脚注の形で記載してください。

8. 著作権

掲載論文の著作権は、眼科臨床紀要会に帰属します。投稿にあたっては、著作権譲渡に同意する旨の書類に、著者全員の署名が必要です。本誌に綴り込みの著作権譲渡同意書を使用し、添付してください。

本用紙はウェブサイト <http://www.ganrinki.net/>からもダウンロード可能です。

9. 掲載料

掲載料は、筆頭著者が会員の場合は2ページ分無料、写植・トレース代無料、非会員の場合は全額著者負担とさせていただきます。

10. 別刷

30部を無料進呈します。

有料の別刷申し込み部数は50部単位とします。50部未満は受け付けません。タイトルページに希望部数を記入してください。校正時に確認してください。

11. 校正

著者校正は、原則として、1回とします。印刷ミスの訂正を主とし、字句の加筆、削除、変更はできるだけ避けてください。大幅な改変のために内容が変化した場合には再査読を必要とすることがあります。

日 程 表

1日目 10月12日(土)	
8:00	
8:40~8:45	開 会 式
8:45~9:35	一般口演 1 「研究報告1」 座長：O1-1~O1-3 溝田 淳(西葛西・井上眼科病院) 中村 誠(神戸大) O1-4~O1-6 町田 繁樹(獨協医大・埼玉) 島田 佳明(藤田医大)
9:45~10:30	一般口演 2 「症例報告1」 座長：O2-1~O2-3 角田 和繁(東京医療セ・視覚研究部) 平形 寿彬(順天堂大) O2-4~O2-6 久瀬 真奈美(松阪中央総合病院) 藤波 芳(東京医療セ・視覚生理学研究室)
10:40~11:50	シンポジウム 1 領域 「小児期に発症する網膜硝子体ジストロフィ」 座長：近藤 寛之(産業医大)
12:00~13:00	ランチョンセミナー 1 「視神経脊髄炎スペクトラム障害の 診断と治療に向けて」 座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾) 共催：中外製薬株式会社
13:10~14:10	特別講演 領域 「眼疾患に対する遺伝学的研究の変遷、現状と展望」 座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾) 演者：岩田 岳(東京医療セ・分子細胞生物学研究部)
14:20~14:50	ティータイムセミナー 1 「網膜電図をモノにしよう！」 座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾) 共催：千寿製薬株式会社
14:55~15:25	ティータイムセミナー 2 「ビガバトリン使用に携わる医療者の思い」 座長：丸鬼 一郎(大阪市立総合医療セ・小児脳神経・言語療法内科) 共催：アルフレッサ ファーマ株式会社
15:30~16:15	一般口演 3 「症例報告2」 座長：O3-1~O3-3 谷川 篤宏(藤田医大・ばんたね) 三浦 玄(千葉大) O3-4~O3-6 篠田 啓(埼玉医大) 齋藤 航(回明堂眼科・歯科)
16:20~17:20	イブニングセミナー 「こう変わる！加齢黄斑変性診療」 座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾) 共催：バイエル薬品株式会社
17:00	

2日目 10月13日(日)	
8:00~9:00	モーニングセミナー 「オキュラーサーフェス診療の Progress ~辛い症状にかつしかない~」 座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾) 共催：参天製薬株式会社
9:10~10:20	シンポジウム 2 領域 「遺伝性網膜疾患に対する遺伝学的検査の最前線」 座長：堀田 喜裕(浜松医大)
10:30~11:20	一般口演 4 「研究報告2」 座長：O4-1~O4-3 西口 康二(名古屋大) 溝渕 圭(東京慈恵医大) O4-4~O4-6 上野 真治(弘前大) 前田 亜希子(神戸アイセンター病院)
11:30~12:20	一般口演 5 「研究報告3」 座長：O5-1~O5-3 國吉 一樹(近畿大) 森本 壮(大阪大) O5-4~O5-6 堀口 正之(藤田医大) 松本 惣一(あいずみ松本眼科)
12:25~13:25	ランチョンセミナー 2 「ついに臨床実装された、 眼科初の遺伝学的検査と遺伝子治療」 座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾) 共催：ノバルティス ファーマ株式会社/シスメックス株式会社
13:35~14:15	招待講演 「わが国の医療を取り巻く状況と今後の方向性について」 座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾) 演者：浅沼 一成(国立保健医療科学院)
14:25~14:55	総 会 優秀発表表彰式
15:05~15:35	ティータイムセミナー 3 「NMOSD の診断と治療」 座長：澤村 裕正(帝京大) 共催：田辺三菱製薬株式会社
15:45~16:55	シンポジウム 3 領域 「自己免疫網膜症診断への道のり」 座長：近藤 峰生(三重大)
16:55~	閉会式

プログラム

プログラム

10月12日 日

開 会 式 8:40~8:45

一般口演1「研究報告1」 8:45~9:35

p39

座長：溝田 淳(西葛西・井上眼科病院)
中村 誠(神戸大)

O1-1 ERGによる落屑緑内障と開放隅角緑内障の網膜機能評価

井川 佑郎¹⁾、吉川 祐司¹⁾、石井 宏和¹⁾、菅野 順二¹⁾、今野 聡美¹⁾、庄司 拓平²⁾、
松本 惣一³⁾、篠田 啓¹⁾

1) 埼玉医大、2) 小江戸眼科内科、3) 松本眼科医院

O1-2 緑内障濾過手術前後における網膜機能の電気生理学的検討

橋本 隆介、三浦 玄、馬場 隆之

千葉大

O1-3 緑内障眼における黄斑局所 ERG と黄斑部血管密度の検討

吉川 祐司¹⁾、林 恒輝¹⁾、今野 聡美¹⁾、村田 江理奈¹⁾、橘 緑¹⁾、菅野 順二¹⁾、
庄司 拓平¹⁾²⁾、篠田 啓¹⁾、松本 惣一¹⁾³⁾

1) 埼玉医大、2) 小江戸眼科内科、3) 松本眼科クリニック

座長：町田 繁樹(獨協医大・埼玉)
島田 佳明(藤田医大)

O1-4 アクアポリン4免疫視神経脊髄炎スペクトラム障害モデルマウスの ERG 変化

中村 誠¹⁾、荒井 実奈¹⁾、楠原 仙太郎¹⁾、桂 義親²⁾、三宅 翔太²⁾、芹澤 賢一²⁾

1) 神戸大、2) 中外製薬

O1-5 抗 VEGF 治療後に錐体 ERG の低下を伴った AMD 眼の臨床的特徴

西村 智治、町田 繁樹

獨協医大・埼玉

O1-6 増殖糖尿病網膜症の術前網膜電図とその予後

山邊 佑樹、一戸 寛、藤林 照太郎、鈴木 幸彦、上野 真治

弘前大

座長：角田 和繁（東京医療セ・視覚研究部）
平形 寿彬（順天堂大）

O2-1 比較的良好な視機能を呈した常染色体顕性視神経萎縮の1例

橘 緑¹⁾、井川 佑郎¹⁾、宮坂 洋輔¹⁾、林 孝彰²⁾、土橋 尊志³⁾、篠田 啓¹⁾

1) 埼玉医大、2) 東京慈恵医大、3) つちはし眼科クリニック

O2-2 7歳から8年間経過を追えた若年型卵黄様ジストロフィーの1例

大島 みなみ、平形 寿彬、原 史拓、中尾 新太郎

順天堂大

O2-3 メンデル遺伝病的近視：RBP3網膜症の一例

藤波 芳¹⁾²⁾³⁾⁴⁾、藤波（横川）優¹⁾²⁾⁵⁾、Michalis Georgiou²⁾³⁾、Arno Gavin¹⁾²⁾³⁾、
Pontikos Nikolas¹⁾²⁾³⁾、山本 素士¹⁾、小松 佳代子¹⁾、前谷 奈津紀¹⁾、角田 和繁⁶⁾、
Michel Michaelides¹⁾²⁾³⁾

1) 東京医療セ・視覚生理学研究室、2) 英国ロンドン大学 眼科研究所、3) 英国モアフィールドズ眼科病院、
4) 慶應大、5) 慶應大・医療政策・管理学教室、6) 東京医療セ・視覚研究部

座長：久瀬 真奈美（松阪中央総合病院）

藤波 芳（東京医療セ・視覚生理学研究室）

O2-4 CDHR1の新規遺伝子バリエントを認めた1家系

平形 寿彬、高 丹、原 史拓、中尾 新太郎、村上 晶

順天堂大

O2-5 1歳時に遺伝子解析で確定診断されたX染色体連鎖性網膜分離症の2例

大石 悠篤、高山 理和、鳥居 薫子、彦谷 明子、倉田 健太郎、佐藤 美保、堀田 喜裕

浜松医大

O2-6 RS1遺伝子のエクソン4欠失を認めたX連鎖性若年網膜分離症の1例

比嘉 奈津貴¹⁾、林 孝彰¹⁾、溝渕 圭²⁾、亀谷 修平³⁾、近藤 寛之⁴⁾、中野 匡²⁾

1) 東京慈恵医大・葛飾、2) 東京慈恵医大、3) 亀谷アイクリニック、4) 産業医大

座長：近藤 寛之(産業医大)

「小児期に発症する網膜硝子体ジストロフィ」

S1-1 早発型重症網膜ジストロフィの早期診断

仁科 幸子(国立成育医療研究セ・小児外科系専門診療部)

S1-2 小児の遺伝性網膜・視神経ジストロフィの臨床診断と遺伝子診断の問題点

國吉 一樹(近畿大)

S1-3 Multimodal retinal imaging からみた小児期の網膜ジストロフィ

溝渕 圭(東京慈恵医大)

S1-4 黄斑低形成から診る小児網膜硝子体ジストロフィ

松下 五佳(産業医大)

ランチョンセミナー1 12:00～13:00

座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾)

「視神経脊髄炎スペクトラム障害の診断と治療に向けて」

LS1-1 原因不明の視力障害の鑑別診断

林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾)

LS1-2 ガイドライン改正後の NMOSD 診療におけるピットフォール

作石 かおり(帝京大・ちば・脳神経内科)

共催：中外製薬株式会社

特別講演 13:10～14:10

座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾)

SL 眼疾患に対する遺伝学的研究の変遷、現状と展望

岩田 岳(東京医療セ・分子細胞生物学研究部)

ティータイムセミナー1 14:20～14:50

座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾)

「網膜電図をモノにしよう！」

TS1 ISCEV Extended Protocol をわかりやすく解説

近藤 峰生(三重大)

共催：千寿製薬株式会社

座長：九鬼 一郎(大阪市立総合医療セ・小児脳神経・言語療法内科)

TS2 ビガバトリン使用に携わる医療者の思い

菊池 健二郎(埼玉県立小児医療セ・神経科)

共催：アルフレッサ ファーマ株式会社

一般口演3 「症例報告2」 15:30～16:15

座長：谷川 篤宏(藤田医大・ばんたね)

三浦 玄(千葉大)

O3-1 COVID-19罹患後に AZOOR を発症しステロイドパルス後に軽快した網膜色素変性の一例

原 史拓、平形 寿彬、中尾 新太郎
順天堂大

O3-2 高齢者に発症した急性帯状潜在性網膜外層症の4例

齋藤 航¹⁾、神田 敦宏²⁾、安藤 亮²⁾、石田 晋²⁾
1) 回明堂眼科・歯科、2) 北海道大

O3-3 両眼に negative ERG を示した後天性夜盲の長期経過

近藤 峰生¹⁾、加藤 久美子¹⁾、永嶋 竜之介¹⁾、間瀬 陽子¹⁾、上野 真治²⁾、松原 央¹⁾
1) 三重大、2) 弘前大

座長：篠田 啓(埼玉医大)

齋藤 航(回明堂眼科・歯科)

O3-4 両眼に多発性の網膜色素上皮剥離を認めた1例

吉田 亜莉沙¹⁾、渋谷 雅之¹⁾、島田 佳明²⁾、井川 佑郎¹⁾、橘 緑¹⁾、篠田 啓¹⁾
1) 埼玉医大、2) 藤田医大

O3-5 小児遺伝性網膜疾患が疑われ静脈麻酔下でコンタクトレンズ型電極を用いて網膜電図記録を試みた1例

森 愛夢¹⁾、奥出 祥代¹⁾、林 孝彰¹⁾²⁾、溝渕 圭¹⁾、高見 遥³⁾、日暮 憲道³⁾、中野 匡¹⁾
1) 東京慈恵医大、2) 東京慈恵医大・葛飾、3) 東京慈恵医大・小児科

O3-6 長期に経過を追えた視神経乳頭ドルーゼンを伴う黄斑ジストロフィの一例

林 信、森本 壮、佐藤 茂、西田 幸二
大阪大

イブニングセミナー 16:20～17:20

座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾)

ES こう変わる！加齢黄斑変性診療

飯田 知弘(東京女子医大)

共催：バイエル薬品株式会社

座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾)

「オキュラーサーフェス診療の Progress ～辛い症状にかつしかない～」

MS-1 不定愁訴を大解剖 ドライアイ診療で困らないために

田 聖花(東京慈恵医大・葛飾)

MS-2 アレルギー性結膜炎治療の進化と課題

深川 和己(両国眼科クリニック)

共催：参天製薬株式会社

座長：堀田 喜裕(浜松医大)

「遺伝性網膜疾患に対する遺伝学的検査の最前線」

S2-1 保険収載された PrismGuide™IRD パネルシステムの導入・運用：名古屋大学の事例

小南 太郎(名古屋大)

S2-2 PrismGuide™ IRD パネルシステムの先進医療

前田 亜希子(神戸アイセンター病院)

S2-3 自施設での取り組みについて：若年発症網膜ジストロフィーに対する網羅的遺伝子解析

鳥居 薫子(浜松医大)

S2-4 全ゲノム解析による遺伝性網膜ジストロフィーの原因変異探索

須賀 晶子(東京医療セ・分子細胞生物学研究部)

座長：西口 康二(名古屋大)
溝渕 圭(東京慈恵医大)

O4-1 高齢発症の脊髄小脳変性症2型に合併した杆体錐体ジストロフィ

中村 奈津子¹⁾²⁾、前田 亜希子¹⁾²⁾、横田 聡¹⁾²⁾、平見 恭彦¹⁾²⁾、栗本 康夫¹⁾²⁾
1) 神戸アイセンター、2) 神戸市立医療センター中央市民病院

O4-2 Hunter 症候群にみられた negative ERG

田村 佳菜子¹⁾、國吉 一樹¹⁾、林 孝彰²⁾、高橋 彩³⁾、船戸 契⁴⁾、萱澤 真梨子³⁾、
溝渕 圭²⁾、杉野 日彦¹⁾、杉岡 孝二³⁾、福田 昌彦³⁾、虫明 聡太郎⁴⁾、日下 俊次¹⁾
1) 近畿大、2) 東京慈恵医大、3) 近畿大・奈良、4) 近畿大・奈良・小児科

O4-3 クリスタリン網膜症における網膜色素上皮、視細胞の障害と視機能の関係

酒井 大輝¹⁾²⁾³⁾、前田 亜希子¹⁾²⁾、平見 恭彦¹⁾²⁾、前田 忠郎¹⁾、山本 翠¹⁾、横田 聡¹⁾²⁾、
高橋 政代¹⁾、万代 道子¹⁾²⁾、栗本 康夫¹⁾²⁾
1) 神戸アイセンター病院、2) 神戸市立医療センター中央市民病院、3) 神戸大

座長：上野 真治(弘前大)
前田 亜希子(神戸アイセンター病院)

O4-4 若年／成人型ガラクトシアリドーシスの電気生理学的所見

松田 紘幸¹⁾、川島 弘彦¹⁾²⁾、藤波 芳¹⁾²⁾、山澤 一樹³⁾、角田 和繁¹⁾²⁾
1) 東京医療セ、2) 東京医療セ・視覚研究部、3) 東京医療セ・遺伝診療科

O4-5 小口病様の眼底異常を示した小眼球の兄弟例

木下 将良
産業医大

O4-6 RP1 遺伝子変異を有する遺伝性網膜ジストロフィ患者の臨床像の検討

小南 太郎¹⁾、夏目 啓吾¹⁾、後藤 健介¹⁾²⁾、小柳 俊人¹⁾、太田 淳也¹⁾、井岡 大河¹⁾、
牛田 宏昭¹⁾、西口 康二¹⁾
1) 名古屋大、2) 大阪大・ヒューマン・メタバース疾患研究拠点 情報・数理科学分野

座長：國吉 一樹(近畿大)
森本 壮(大阪大)

O5-1 頭部外傷後に両眼左半視野の色覚異常を呈した大脳性色覚異常の診断と経過観察に
SWAP と錐体コントラスト検査が有用であった1例

間瀬 陽子¹⁾、久保 朗子²⁾、加藤 久美子¹⁾、内山 恵理子¹⁾、松井 良論¹⁾³⁾、松原 央¹⁾、
近藤 峰生¹⁾

1)三重大、2)紀南病院、3)中部眼科

O5-2 糖尿病網膜症における律動様小波と30Hzフリッカー ERG の診断能力の比較

権守 真奈

獨協医大・埼玉

O5-3 藤田医科大学病院におけるサブリル処方登録システムの患者背景と臨床経過

鈴木 啓太¹⁾²⁾、谷川 篤宏¹⁾³⁾、島田 佳明¹⁾、堀口 正之¹⁾、伊藤 逸毅¹⁾

1)藤田医大、2)国家公務員共済組合連合会 名城病院、3)藤田医大・ばんたね

座長：堀口 正之(藤田医大)

松本 惣一(あいずみ松本眼科)

O5-4 瞳孔面積の違いによる ERG 波形の変動を最小化する係数を用いた
フリッカ ERG の記録

加藤 久美子¹⁾、永嶋 竜之介¹⁾、加島 悠然¹⁾、水元 啓太郎¹⁾、松原 央¹⁾、
Quentin Davis²⁾、近藤 峰生¹⁾

1)三重大、2)LKC Technology

O5-5 Pulse reference power line noise reduction の有無による信号雑音比の比較(その2)

谷川 篤宏¹⁾²⁾、島田 佳明²⁾、堀口 正之²⁾、伊藤 逸毅²⁾

1)藤田医大・ばんたね、2)藤田医大

O5-6 健眼から記録された37刺激エレメント皮膚電極多局所網膜電図の性質

島田 佳明、櫻井 亮太、上田 伊代、佐藤 光、谷川 篤宏、堀口 正之、伊藤 逸毅
藤田医大

座長：林 孝彰(東京慈恵医大・葛飾)

「ついに臨床実装された、眼科初の遺伝学的検査と遺伝子治療」

LS2-1 IRD 遺伝学的検査の現状

前田 亜希子(神戸アイセンター病院)

LS2-2 IRD に対する遺伝子治療

平見 恭彦(神戸アイセンター病院)

共催：ノバルティス ファーマ株式会社/シスメックス株式会社

座長：林 孝彰（東京慈恵医大・葛飾）

IL わが国の医療を取り巻く状況と今後の方向性について

浅沼 一成（国立保健医療科学院）

座長：澤村 裕正（帝京大）

TS3 NMOSD の診断と治療

小松 鉄平（東京慈恵医大・脳神経内科）

共催：田辺三菱製薬株式会社

座長：近藤 峰生（三重大）

「自己免疫網膜症診断への道のり」

S3-1 北海道大学の自己免疫網膜症への取り組み

安藤 亮（北海道大）

S3-2 抗 TRPM1 抗体による腫瘍随伴網膜症

上野 真治（弘前大）

S3-3 徳島大学病院における自己免疫網膜症診断への取り組み

柳井 亮二（徳島大）

S3-4 自己免疫網膜症の克服を目指した多機関共同研究によるデータベース構築

楠原 仙太郎（神戸大）

抄 録

特 別 講 演

招 待 講 演

シンポジウム

一 般 口 演